

多摩支部会報

全国校友石川大会特別号

平成30年11月11日

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

編集 飯田光宏

来まっし 見まっし 寄るまっし

第54回 明治大学全国校友 石川大会

(平成30年) 2018年9月29日(土)・30日(日)

29日	支部長・幹事長・地区部長・本編委員会 前夜祭	ホテル金沢 午後3時～4時30分 ホテル金沢 午後5時～7時	[前夜祭参加費] 校友: 10,000円 同席者: 10,000円
30日	記念式典・記念講演会 懇親会	石川県立音楽堂 午後1時～4時 ホテル日航金沢 午後5時～7時	[大会参加費] 校友: 13,000円 同席者: 10,000円

明治大学校友会石川県支部事務局



大会概要 2P
校友寄稿 3～7P
大会記念誌抜粋 8p～15P

トワーク 中部 MICE センター

区平池町 4-60-12 グローバルゲート 8階
730-4343



足利島 (夏)



兼六園 (冬)



丸谷窯



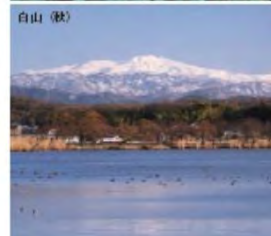
ひがし茶屋街 (朝)



金沢城川門 (春)



輪島キリコ祭り (夏)



白山 (秋)

第54回明治大学全国校友 石川大会 概要

多摩支部広報委員長
飯田 光宏 (39法・町田)

第54回明治大学全国校友石川大会が台風24号が来襲した中、金沢市で開催されました。参加申込約1,000名でしたが、飛行機・鉄道等運休でおよそ2割の校友が来場できず(関係者談)、ドタキャンとなりました。

多摩地域支部からは、西山 強支部長、柳澤正長幹事長など30名弱の校友が出席いたしました。

29日の支部長・幹事長・本部員等懇談会では、柳谷 孝理事長が「学校法人 明治大学の現状と展望」と題する講演をされました。

その中で、大学を取り巻く厳しい状況として、少子高齢化(18歳人口減)・補助金削減・23区内定員抑制やグローバル化の進展・技術革新・産業/社会構造の変化や140周年150周年を見据えた今後の対応等に触れ、2011年～2021年(創立140周年)の間の長期ビジョン(世界へ! 国際人の育成と交流のための拠点、世界で活躍する強く輝く「個」を育てる教育研究の実現)に沿った第2期中期計画の策定実施等を熱く語り、国際学生寮の新築・和泉新教育等の新設と老朽化施設の建替を見据えた資産の積立や他有力大学と比較して大

きく下回る寄付金協力要望等への想いを講和されました。―[校友各位による様々な支援・募金を期待したいと考えます(広報委)。]

前夜祭懇親会では、ひがし茶屋街の芸妓による伝統舞踊に引き込まれ、又、石川県無形文化財指定の御神乗太鼓の激しい動きとリズムに圧倒されました。

さて、第54回大会式典は石川県知事や金沢市長等のご来賓を迎え、大会旗の入場、国歌・校歌斉唱、中村大会実行委員長の開会宣言で始まり、歓迎挨拶・祝辞等々厳かに進行し、次回千葉大会にバトンタッチを渡しました。

大会式典に続き5期20年金沢市長を務めた山出 保氏による「まちづくり金沢」と題する講演があり、金沢を愛する情熱と行動力に深く感銘いたしました。

懇親会は、さすが金沢、3茶屋街の芸妓約20名による、金沢市の茶屋街の伝統的芸能「素囃子」の演奏で始まりました。

金沢市内一の大広間でしたが、800名の校友で立錫の余地なし状態。 次回千葉県大会での再会と大円陣を組んで校歌熱唱、万歳三唱でお開きとなりました。

コンパニオンに感想を聞いたら、凄い絆と母校愛に感動しましたとのことでした。

素囃子

稲城・新井ご夫妻と筆者(中央)

金沢素囃子は加賀百万石の伝統文化のひとつとして、その格調の高さ、優美華麗さ、技能水準の高さにおいても全国的にも上位にあり、地方的特色が顕著な芸能といえます。(PCより)



おもてなしの心で迎えられた、 全国校友石川大会に参加して！



多摩支部長
西山 強 (36年工:国分寺)

今回のスローガンである「来まっし 見まっし 寄るまっし」使われております「まっし」は、相手にものごとを勧めるときに使われる金沢ことばと聴き、金沢の何処へ行っても「おもてなしの心が行き渡っている」のに感心しました。

大会は9月29日(土)・支部長・幹事長・地域幹事長・本部役員の懇談会・懇親会、9月30日(日)・全国校友大会・懇親会の2日間、全国から1,000名を超える校友の参加の予定でしたが台風24号の影響で700名程度となりました、しかし、どの会場

も熱気にあふれた盛大な素晴らしい大会でした。

来賓として柳谷理事長、土屋学長の祝辞を始め、石川県谷本正憲知事(副知事代行)、山野之義市長を迎え、その祝辞の中で、金沢が今もなお残り、加賀百万石の城下町の風情を残し、加賀藩の歴代藩が「武」よりも「文」を奨励し学術、文化、工芸の復興の力を入れた歴史を見ることが出来たのは非常に有意義であった。

特に柳谷理事長の「学校法人明治大学の現状と展望」の講演で長期ビジョンと中期計画、特に創立140周年に向けて進めている事業を具体的に説明があり、非常に有意義な内容でした。

これらの内容と会議等の内容は多摩支部役員会で多少触れますので、ここでは省略いたします。今回は多摩支部からの20数名の参加者を頂き有難うございました、これからも出来るだけこれらの大会にも参加頂き「明治は一つ」で活動を続けましょう！



前夜祭懇親会で居合せた多摩支部校友 提供:石川支部一山浦氏

金沢の伝統芸能

金沢を形容する「天から謡が降ってくる」という言葉があります。古くから武家や商家だけではなく植木職人までが能楽をたしなみ、金沢の城下町を歩くとどこからともなく小謡を口ずさむ声が聞こえたことから使われた言葉です。加賀宝生や狂言、邦楽や舞踊に代表される金沢の伝統芸能は、今も多くの人に愛され、金沢の地で生き続けています。(PC検索)



加賀100万石前田家、 梅小鉢家紋



多摩支部幹事長
柳澤正長(38工:国立)

第54回全国交友大会が1000名(名簿上)を超す校友参加のもと9月29,30日にかけて盛大に開催されました、東京都5支部より約160名が参加をしております。大会当日、午前中の空き時間を利用して、金沢市内の名所観光を巡りをさせて頂きました。

そこで今回は原稿依頼を受けまして、大会等に触れずに、敢えて、前田家家紋と藤原道真・矢保天満宮について、簡単に記してみました。

女性名ガイドのもと、金沢駅前よりひがし茶屋街、天徳院、武家屋敷、兼六園とまわり、全国大会に間に合うよう駅に到着、大会に参加。

前田利家公の奥方は徳川2代将軍秀忠の長女珠姫、3歳にて加賀の国へ嫁ぎ24歳の若さで亡くなったそうです。

その珠姫の菩提寺天徳院を参拝、説明の中で前田家の家紋は梅子鉢とのこと、国立市にある谷保天満宮の紋も同じ梅子鉢です、

谷保天満宮は菅原道真公の3男、菅原道武が

開祖と言われております、西暦901年、菅原道真、太宰府へは配流、同時に三男道武、武蔵の国(現在の府中市本宿)へは配流される。道真は西暦903年に没、その後、菅原道武は津戸貞盛(上平太貞盛または平清盛か)の娘と結ばれ、道英が誕生、その後7代目(?)に津戸三郎為守誕生(西暦1163年)、西暦1180年8月源頼朝の石橋山に挙兵する。

為守、18歳でこの戦に参加、以後鎌倉武士として戦に参加、西暦1181年为守、武蔵野国家人となる、1185年平家、壇ノ浦の合戦で滅亡、その後、谷保天満宮の周囲に別当安楽寺、以下社務6院を建造、現在、北側に「滝の院」のみ現存しております。

西暦1240年、為守、天満宮の神主となる、以後、谷保天満宮の宮司は津戸家が引き継ぎ、現在、津戸最宮司は63代目になるそうで、東関東では由緒ある天満宮だそうです。



兼六園

金沢半日コース観光 写真—新井氏



全国校友石川大会に参加して

當麻 功
(39商 小平)



40年ぶりの金沢行き、9月29日の午後初めて乗る北陸新幹線のホームに立った。同行させていただく波多野先輩はすでに着いていた。なんとなく華やいだ気持ちのなか、新幹線は出発し、約2時間半の旅もあったという間の到着となった。

翌日の講演で解説されることとなる金沢駅は当初の予想以上の素晴らしさであった。道順を少し間違えて着いたホテルで一休みののち、前夜祭が行われるホテル金沢へ向かう。学校側関係者のあいさつの後、北陸の都、金沢らしい雰囲気の花子さんによる舞や御陣乗太鼓の実演などが

披露され懇親会に入ってしまった。

会場内では、全国各地から約800人の校友が集まり、先ほどの芸子さんたちも交えながらの交流で盛り上がっていった。

小生も美味しい日本酒と地元の食材そしていくつもの芸能により金沢の文化と幸せな気分と時間を満喫し、この地に来て本当に良かったとの思いであった。

そして地元の校友の皆さんの「おもてなし」の心はいたるところに感じられた。この状況は前夜祭のみならず翌日の式典・懇親会の場でも同様であった。

ただ、今回は 台風24号のさなかであり多摩からは来られない方があったことは残念であった。

最終日には台風一過となり能登半島周遊のバスツアーも含め、久しぶりの金沢を堪能できた3日間であった。金沢支部の皆様有難うございました。



写真：江面氏



写真：新井氏

御神乗太鼓

天正4年(西暦1576年)越後の上杉謙信は、能登の名城であった七尾城を攻略して「霜は軍営に満ちて 秋気清し 越山を併せたり 能州の景」と詠じ、その余勢をかけて奥能登平定に駒を進めた。村人達は、鍬や鎌まで持ち出して上杉勢を迎撃する準備を進めたが、あまりにも無力であることは明白であった。しかし郷土防衛の一念に燃え立った村人達は、村の知患者といわれる古老の指図に従い、樹の皮で仮面を作り、海藻を頭髮とし、太鼓を打ち鳴らしながら寝静まる上杉勢に夜襲をかけた。上杉勢は思いもよらぬ陣太鼓と奇怪きわまる怪物の夜襲に驚愕し、戦わずして退散したと伝えられている。(HP引用)



「金沢、いいね」



江面利和 (47工:日野)

金沢の街は初めてです。今回訪れる機会を与えてくれた全国校友大会は私にとって有難いイベントです。

本大会で特に印象に残ったのは土屋学長の「校友子弟推薦入学枠を設けたい」と話されたことで、地方の校友の子弟を入学させることで校友会との関係強化ができるようにしたいとの意向は是非実現して欲しいものです。卒業すると疎遠になる傾向が強いですが、学生と先輩校友のつながりをいっそう強くし、「明治は一つ」のスローガンを後押しするような提言であると思いました。

さて、本大会は午後からだったので、いつも通

り早便で金沢①に入り、見たかった21世紀美術館②を訪れました。特色でもある床が透けるプール③を見学し、近江町市場までゆっくり町並みを見ながら、裏通りをウォーキングです。

地方に来たらなるべく歩くことにしています。バスに乗ると観光ポイントだけになってしまい、ホントの町の魅力、ガイドブックに載らない意外な風景やお店など知ることができません。

翌日は、兼六園内④の茶屋で前日予約をしておいたお昼を済ませ、市内散歩の続きです。ひがし茶屋街⑤では、金つばで有名な中田屋の二階のカフェで一休み。その後、長町の武家屋敷跡⑥を散策、二本差しが歩いたと思われる昔を想像させるような道を楽しみました。

人づきあいが悪いと思われますが、知らない街は”気ままにぶらり一人散歩”するのが好きです。

(写真:駅以外は江面氏提供)

スナツプあれこれ



全国校友石川大会に参加して



沼尻 哲 (46商:国立)

台風24号の真っ只中、多摩支部23名の盟友と共に加賀百万石、おもてなし文化の根づく金沢市を訪れて参りました。全国大会は3つの役割を担っていると思う

- 1 母校の現状を知り、充実・発展を願い、支援・賛助を確認する場である。
- 2 社会で活躍するOB同士が親睦を図る場。
- 3 全国津々浦々で開かれる開催都市の人・自然・文化に触れあう場所である。

講演は二題。

＜柳谷理事長の明大の現状と展望＞

12年連続志願者数は10万人を超えているが、少子化・補助金減・23区内の定員抑制といった環境の中、創立150周年に向けてグローバル化・整備等を進めているが、老朽化も進み、寄付金に本腰を入れたい。(慶63・早33・明6億円)

＜記念講演 元市長山出氏の街づくり＞

藩政期に確立された街並み・建造物・城下町の風情と云った伝統・文化を活かした街づくりに取り組み、創造・革新をコラボさせ見事融合の様子を熱く語られた。

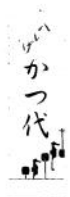
最後は9人と市内・能登めぐり(キリコと千枚田)や治部煮・金沢おでん・笹すしを堪能、さらに金沢芸妓との触れ合いも楽しいひと時でした。

左写真の説明

“今回の私の宝物”

1. 29回目の全国大会参加の町田木村氏の名刺
2. 多摩支部有志の選んだ金沢芸妓ベストワン
3. 参加証

右ポスター写真:江面氏 →



エクスカーション(沼尻様ご一行)の場合

沼尻・柳澤・當麻・木村・波多野・飯田の6人は、大会事務局で用意されたコースとは別に、北陸鉄道の定期観光バスを利用しました。金沢駅7時50分発、帰着16時40分でほぼ予定通りに「奥能登観光」をいたしました。輪島朝市・白米千枚田・輪島キリコ会館・千里浜なぎさドライブウェイなど行きました。生憎曇り空で、晴れたりもしましたがなんせ台風一過、風が強く、お陰で日本海の荒波も見れました。渚ドライブは、海水が砂浜一杯に来ており、車窓からの展望となりました。(記:飯田)





第54回 明治大学全国校友石川大会

記念式典 [午後1時～午後2時15分]

式典次第

日時：平成30年9月30日(日) 午後1時
会場：石川県立音楽堂コンサートホール

オープニング

大会旗入場

旗手（明治大学野球部OB）

行田 篤史

国歌斉唱

校歌斉唱

物故校友への黙祷

開会宣言

大会実行委員長

中村 驍

歓迎の挨拶

石川県支部長

安井 克郎

来賓紹介

大学役職者紹介

校友会役員紹介

大会会長挨拶

明治大学校友会会長

向殿 政男

祝辞

学校法人明治大学理事長

柳谷 孝

祝辞

明治大学長

土屋恵一郎

来賓祝辞

石川県知事

谷本 正憲

来賓祝辞

金沢市長

山野 之義

来賓祝辞

明治大学連合父母会長

今村 健

全国支部長代表挨拶

千葉県東部支部長

小関 道生

（次年度全国校友大会開催県）

万歳三唱

明治大学校友会会長

向殿 政男

学校法人明治大学理事長

柳谷 孝

閉会の挨拶

石川県副支部長

武部 興和

歓迎の挨拶



明治大学校友会
石川県支部
支部長

安井 克郎



明治大学校友会
石川県支部
大会実行委員長

中村 驍

加賀百万石の時代より「おもてなし文化」が根づく石川県へ、ようこそお越しくださいました。全国各地及び大韓民国から約1,000名の校友の皆様にご来県いただき、石川県支部・実行委員会を代表して心より歓迎と感謝を申し上げます。

本日ここに「第54回明治大学全国校友石川大会」を谷本正憲石川県知事、山野之義金沢市長、今村健明治大学連合父母会会長をご来賓としてお迎えし、また明治大学から柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長はじめ大学関係役職者各位のご列席のもと盛大に举行できます事は真に慶びに堪えないところであります。

石川県では、2015年に北陸新幹線が開業し、4年目を迎えた現在も想定を超える利用者の方に足を運んでいただいております。特に外国人観光客の増加率は、毎年増加の一途をたどり、過去最多を更新しております。特に欧州からの観光客が増加し、欧州では日本庭園への関心が高く、兼六園が人気スポットです。今後も2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、さらなるインバウンドの拡大が期待されております。

今回の大会スローガンである「来まっし 見まっし 寄るまっし」に使われております「まっし」は、相手にものごとを勧めるときに使われる金沢ことばです。

伝統文化・芸能をはじめ、四季折々の風情を奏でる自然景観、豊かな食材や地域に根ざした祭りなど多彩な魅力にあふれる石川県に「来て、見て、寄って」いただきたいスローガンといたしました。本日は、精一杯のおもてなしの心を込めまして、皆様に石川を楽しんでいただきたく存じます。

最後に本大会開催にご協力ご尽力いただきました

すべての皆様に、改めまして心より感謝申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様の今後ますますのご多幸とご健勝を祈念申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

大会会長挨拶



明治大学校友会
会長

向殿 政男

待ち望んでいた今年度の全国校友大会が、石川県で開催される運びとなりました。ここに至るまでの多くの関係者の皆様、特に、安井克郎支部長をはじめとする石川県支部のご尽力に対して、深く感謝申し上げます。

母校明治大学の志願者数は、今年もまた、12年連続で10万人を超えました。母校は、現在、このように大変な人気を博しておりますが、受験生はもちろんのこと、現役学生、ご父母、校友の皆様にも、大好評を以て受け入れられております。

また、本学は創立140周年を見据えた中期計画をはじめ、重点施策のひとつに「ステークホルダー（校友会・父母会）との連携」を掲げており、より一層の連携強化を図ることを進めています。大学と校友は表裏一体の関係にあり、近年における明治大学の高い評価は、長年にわたる大学の教職員、経営陣、現役の学生等大学関係者の懸命なご努力の賜物ではありますが、更に加えて、校友である皆さま方のご活躍による社会的評価の結果であり、ここに敬意を表する次第です。

しかしながら、本学をはじめとする高等教育機関を取り巻く環境は、18歳人口の減少、グローバル化の加速、入学定員の厳格化、東京23区内の大学の定員抑制など一層厳しさを増しています。

そのため、今後の明治大学が取り組む様々な事業において、皆さまのご協力が必要不可欠であります。校友会といたしましては、地方からの志願者数を増やし支援するための給付型奨学金「つなげ！“紫紺のたすき”奨学金」に加え、今年度からは経済的理由により修学が困難な学生に給費し、学業の継続を支援する校友会奨学金「前へ！」を創設するなど組織力の強さをもって、支援しております。

更に、大学は「校友の皆さまとともに、明治大学のブランドを強めていくこと」を重視して、ヒューマンネットワークの構築に取り組んでおり、55万人を超える校友が世界中のあらゆるシーンで活躍しております。本学の校友会ネットワークも大韓民国・台湾の支部に加え、海外の主要地域に在住・駐在する海外の校友団体「海外紫紺会」が20ほど設立されました。

校友会の目的は、大学を支援し、賛助することです。その活動を通して卒業生同士の親睦を図ることです。その中で校友会の役割は、母校が発展・充実するよう、そして、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援することです。私たち校友は、その活躍・貢献により、明治大学の名声を上げることに寄与しております。「明治ファミリー」として明治大学関係者が一致団結し、協力していくことが、私が掲げるスローガン「明治はひとつ」を意味しております。

全国校友大会は、これからの校友会を益々躍進させていくことで、母校を支援し、母校に貢献することを誓う機会であります。今年は、ここ石川県で、“来まっし 見まっし 寄るまっし”をコンセプトとしたこの大会を、是非とも盛り上げていきましょう。

石川大会の成功を、そしてご来場の皆様、関係各位の益々のご多幸と母校明治大学のさらなる発展を、心より祈念申し上げます。

祝 辞



学校法人明治大学
理事長

柳谷 孝

第54回全国校友石川大会が、向殿会長、安井石川県支部長をはじめ、ご関係の皆様方によるご尽力により盛大に挙行されますことを、心よりお慶びを申し上げます。また、全国の校友会の皆様におかれましては、日頃より本学に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、今回の校友大会にあたり、この石川が、本学創立期を支えた杉村虎一先生ゆかりの地であることを皆様にご紹介申し上げたいと思います。杉村先生は、江戸末期の安政4年（1857年）に加賀藩で生を受けました。幼少期にこの地で研鑽に励んで、晴れて司法省法学校（明法寮の後身）に進み、日本近代法の父と呼ばれるボワソナードの下で指導・薫陶を受けました。その頃出会った岸本先生、宮城先生、矢代先生と磯部四郎氏（富山藩出身）とともに「明法寮の五人組」と呼ばれ、彼らは大変親しい間柄でありました。この強い繋がりは、司法省法学校の後も続き、杉村先生は、フランス法を中心とした新しい教育を行わんと岸本先生、宮城先生、矢代先生が協力して設立した明治法律学校で教鞭を執り、本学の揺籃期を支えたのです。外交官に転身してからは駐独全権大使に任じられるなど世界を舞台に活躍するとともに、本学で理事も務めるなど、その後の学校の発展にも大きく貢献した功労者でありました。

本学創立時に作られた『明治法律学校設立ノ趣旨』には、「同心協力一校ヲ設立シ」という一節があります。皆が文字通り「同心」つまり同じ志をもって共に協力し創立した、それが明治大学であると記されています。この「同心協力」の精神は、学生44名という小さな所帯で始まった頃から、創立者の先生方と一緒に法学の

指導に尽力した杉村先生の姿そのものでありましょう。そして現在、校友の皆さま方が常日頃おっしゃっている「明治はひとつ」という言葉からも、本学にその精神が脈々と息づいていることを感じております。学生としての大学への在学期間は数年間ですが、校友は一生であります。校友会の皆様が現役学生への支援を通じて、次代の校友を育成する。そのような循環を通じて「同心協力」の輪を更に広めていっていただきたいをお願いを申し上げる次第です。本大会では、杉村先生を育んだこの石川の地で、「明治はひとつ」の思いを新たに全国の校友の皆様方と「同心」となって、大いに母校の未来を語り、高らかに校歌を斉唱できますことを心待ちにしております。

結びにあたり、母校明治大学がアジアそして世界のトップユニバーシティとして大きく飛躍できますよう更なるご支援をお願い申し上げますとともに、校友会の一層の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

祝 辞



明治大学
学長

土屋 恵一郎

全国校友石川大会が盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。また、本大会が無事に迎えられたのも、石川県校友会員をはじめとする多くの関係者の皆様のご尽力の賜物であります。心より敬意と謝意を表します。

石川県金沢市には、住んだこともなく度々訪れた場所でもないのに、親戚がいるような近しさを覚えるのは、「吉田健一」という作家のおかげです。吉田健一は、政治家吉田茂の子供ですが、翻訳家として知られており、英国文学の批評家でもありました。ちょうど、私が大学院生であったころ、雑誌「ユリイカ」に連載された『ヨオロッパの世紀末』で、突然ブレイクして次々と本を出版しました。私は当時、出版社にかけ合い著作集を手に入れたり、神保町の食堂「ランチョン」で編集者と打ち合せをしながら、紅茶にダブルのウィスキーを入れて、お昼からケラケラと笑う吉田健一を見に行ったりするほど熱中していました。その吉田健一の小説の一つに「金沢」があります。犀川の周りを歩きながら小説「金沢」のなかに入り込むことが、30代の楽しみでした。

このような学生時代を過ごせたのは、私が、明治大学の学生であったからです。明治大学には、東京と金沢を結びつけ、学生を引き寄せる、磁力があります。最近はこの磁力が弱まって、明治大学が全国大学としての役割を失っていることは、これから解決しなければならない課題の一つです。現在、本学は各地方からの学生の割合が3割ほどで、約7割は首都圏一都三県の学生となっています。この事実を無視して、政府は、東京23区への学生集中を避けるためと称して、23区の大学の定員増を今後10年間は認めないという法案を国会に提出し、可決されました。この法律によって、

23区の大学は新学部を作るなどの新しい試みはできなくなります。現在の政府による大学政策、文教政策は構想力を欠いた、その場しのぎのものになっていると言わざるを得ません。「有職者会議」という愚者の宴によって、安倍政権は大学のエネルギーを奪っていくことでしょう。

本来の大学の力を発揮するためには、国からの補助金に頼らない財政基盤を構築する必要があります。それが、本学の建学の精神である『独立自治』の意味です。補助金なしで大学を運営する覚悟を持たなければ、大学は自由と独立を獲得できないでしょう。いずれにしても、明治大学に全国から来てもらうために、地方からの学生への豊かな奨学金が必要です。また、再三話してきましたように、地方を主体にした校友子弟推薦入学制度を作る必要があります。校友、とりわけて、地方の校友の子弟を入学させることによって、明治大学のレガシーを繋いでいかなければなりません。大学と校々との信頼関係をさらに強化しながら、明治大学の全国大学としての力と存在感を強めていきたいのです。

ここ石川県金沢市で150周年を見据え、今後の明治大学のあるべき姿を皆様と共に語り合えることに喜びを感じています。校友の皆様にご心より感謝申し上げます。

祝 辞



石川県知事

谷本 正憲

第54回明治大学全国校友石川大会が、ここ石川の地において盛大に開催されますことに心よりお祝い申し上げます。また、全国各地からご来県いただきました校友の皆様方を心から歓迎申し上げます。

明治大学は、明治14年に3人の青年法律家によって創立された明治法律学校を前身とし、今日では4つのキャンパスに10の学部、16の研究科を擁する我が国屈指の総合大学として、「権利・自由」、「独立・自治」の建学の精神のもと、多くの有能な人材の育成に努められておられます。

また、明治大学校友会は、明治19年に第1回総会が開かれて以来、大学の歩みとともに伝統と歴史を刻んで来られ、およそ56万人にも及ぶ校友の皆様方が相互の親睦を図るとともに、母校の発展・充実に寄与するため、活動されているとお伺いしています。

とりわけ、平成27年度から始まった地方出身学生向けの奨学金は、故郷を離れて東京に学ぶ学生を経済的に支えるものであり、地方に配慮したこのような取り組みは、大変に心強く思っています。

明治大学には、現在、本県ゆかりの学生が110名余り在籍していると伺っていますが、石川県では、一人でも多くの明治大学の学生の皆さんに石川県内で就職していただきたいとの思いから、昨年1月に明治大学と就職支援協定を締結しました。

今後とも、この協定に基づき、本県へのUIターン就職情報の提供や、学内で開催される就職ガイダンス等への相談員派遣など、本県に就職を希望する学生の皆さんをしっかりとサポートしてまいりますので、校友の皆様方におかれましても、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また、この大会を契機に「明治はひとつ」の精神のもと、校友相互の連帯と親睦の輪を広げられ、母校の一層のご発展に資するとともに、更なるご活躍をされまことを大いに期待いたしています。

そして、県外からお越しの皆様方には、折角の機会ですので、日本三名園の一つである兼六園や金沢城公園、武家屋敷など加賀百万石の城下町の面影を残す金沢、旅情豊かな加賀の温泉郷、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」などの歴史や豊かな自然、「九谷焼」「加賀友禅」「輪島塗」に代表される伝統工芸、山海の味覚、地酒、銘菓など、本県の多彩な魅力をご堪能いただき、本大会の思い出の1つとしていただければ幸いに存じます。

最後に、この大会が、明治大学校友会及び明治大学の今後益々の発展の礎になりますとともに、本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



金沢市長

山野 之義

このたび、「第54回明治大学全国校友石川大会」が、ここ金沢の地で盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただいた皆様を心から歓迎申し上げます。

本市には、藩政期に確立されたまちなみや歴史建造物が今なお残り、加賀百万石の城下町の風情を感じて頂くことができます。また、加賀藩の歴代藩主が「武」よりも「文」を奨励し、学術、文化、工芸の振興に力を注いだことにより、茶道や能楽が商人や職人にまで浸透し、加賀友禅、金沢箔、金沢漆器、九谷焼など数多くの工芸品が生まれました。こうして花開いた金沢の文化は、先人達の貴い努力により、今日まで連綿と受け継がれ、現在も市民の日々の暮らしの中に息づいています。その一方で、金沢21世紀美術館や金沢駅もてなしドームに代表されるように、創造的で革新的な気風や刺激的でクリエイティブな雰囲気も併せ持っています。金沢のまちの個性と魅力は、歴史を礎として、受け継がれてきた学術や文化を磨き高めると同時に、常に新たなものにも目を向け、新たな価値を創造してきた文化的土壌にあると自負しております。伝統と革新との相互作用が金沢固有の文化を生み出してきましたが、その原動力は、ほかならぬ人であります。金沢が魅力ある文化都市としてさらなる発展を遂げていくためには、次代の文化を担う人づくりを今まで以上に進めていくことが、極めて重要と考えております。

明治大学は、明治14年の創立以来、「権利自由、独立自治」という建学精神に基づき、「個」の確立を基礎とした教育方針のもと、有為な人材の育成に取り組まれ、50万人を超える卒業生を社会へと送り出してこられました。その多くが、政財界、文化、スポーツな

ど様々な分野でご活躍されております。また、明治大学校友会は、創立以来、大学の歩みとともに伝統と歴史を刻み続け、現在では約53万人もの校友を擁し、母校の発展・充実に寄与されています。140年近い歴史と伝統、愛校心にあふれた卒業生のネットワークは、大学や校友会だけでなく、キャンパスで学生生活を謳歌する3万人余の学生のみなさんにとっても、大きな財産となっていることと存じます。向殿政男会長を先頭に、「明治はひとつ」の精神のもと、校友会の活動にご尽力されている校友の皆様に深く敬意を表します。

本大会にお集まりの皆様には、この機会に、より一層交流を深めて頂くとともに、歴史、伝統文化、食など、金沢の魅力を存分にご堪能頂きたいと思っております。

最後になりましたが、本大会のご盛会をお祈りいたしますとともに、明治大学校友会及び明治大学のさらなるご発展、並びに、ご参加の皆様のますますのご健勝、ご活躍を祈念いたしまして挨拶いたします。



成田山新勝寺



龍宮城スパホテル三日月と「霊峰不二」



伊勢海老(千葉県が漁獲量全国1位)



東京湾アクアラインと海ほたる



いすみ鉄道



鴨川シーワールド

やっさい! もっさい! おっさ!! 来たいよ総の国
明治はひとつ

第55回 明治大学全国校友

MEIJI UNIVERSITY

千葉大会

2019.10.5^土→8^火

主催 明治大学全国校友千葉大会実行委員会

10/5^土

支部長・幹事長・地域支部長・本部員懇談会
前夜祭

●東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート
(浦安市舞浜)

10/6^日

エキスカーション(半日・2コース)

▶成田山新勝寺参拝 ▶マンドリン倶楽部ランチコンサート
(ホテルグリーンタワー幕張)

第1部 記念式典

第2部 記念講演

いすみ鉄道 前社長 鳥塚 亮氏(予定)

●幕張メッセ(千葉市美浜区)

第3部 懇親会

●ホテルニューオータニ幕張
(千葉市美浜区)

10/7^月・8^火

エキスカーション(県内各地)

記念ゴルフ大会(真名カントリークラブ)



懇親会ホテル
【ホテルニューオータニ幕張】

記念式典会場
【幕張メッセ】

事務局ホテル
【ホテルグリーンタワー幕張】

幕張新都心

JR 海浜幕張駅



三原坂 串



千葉県PR
マスコットキャラクター
「チーパくん」
(千葉県許諾 第A1697-1号)

明治大学全国校友千葉大会実行委員会事務局
〒261-0021 千葉市美浜区ひび野2-10-3 「ホテルグリーンタワー幕張」内 TEL 043-296-3676



見附島



兼六園



九谷焼



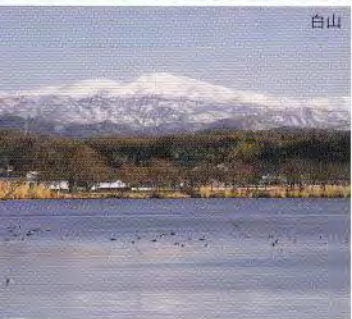
ひがし茶屋街



金沢城石川門



輪島キリコ祭り



白山

